

主な使用場面・領域・教科等：生活単元学習，作業学習，音楽

<図・写真>



<材料・製作方法等>

- ①サンティック丸棒を手の幅に合わせ2本にカットし、それぞれ穴を通す。うち1本にはゴム紐を通す。
- ②ゴム紐の先にテグス糸を結び、平行コードを半田付けしたマイクロスイッチに固定する。マイクロスイッチはグルーガンで丸棒の端に接着。
- ③グリップを落とさないよう、甲及び手首を巻くサポーターを作り、グリップに取り付ける。

<ねらい>

上肢の動きを、より安定的にスイッチ入力へつなげる。

<指導方法・留意点等>

- 上肢全体のマッサージやストレッチなどを事前に行い、運動しやすい状態を作る。
- 下肢を中心とした大きく強い動きで自己刺激している際には、動きを抑制するか静止するのを待ち、対象となる学習活動への意識付けを図る。

<指導経過・成果・課題・展望等>

上肢の動きの幅が一定でない生徒であるため、従来の紐スイッチでは本体の位置を頻繁に変えなければならなかった。また大きく強い動きもあるため、本体をクランプ等でテーブルに固定する必要もあった。身に着けるスイッチにしたことで、クランプ等で本体を固定する必要はなくなり、また、両手の間のゴムを長さ調整できる“留め”を設けたことで、動きの幅にある程度柔軟に対応できるようになった。

力が入り過ぎていると本体側の左手が回内してゴムを左手親指で押さえてしまい、右手を正面に戻してOFF状態にしたつもりでも、ONが継続されたままになることがあるため、その場合には左手の回内を戻す必要があった。

気持ちが高揚している際は上肢の動きも現れやすいものの、そうでない場合は教師の様々な働き掛けにも応じる様子が見られないことも多いため、主体的な活動による成功体験を重ねていくためには、活動自体の工夫のみならず、活動のタイミングや長さを見計らう必要がある。

